客船よもやまばなし

〈連載244〉

学生42人と行く「バリシップツアー」

大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田　良穂

筆者の勤務する大阪府立大学の海洋システム工学科は、元は船舶工学科で、今でも船舶工学が主要な柱となっていて、学生は海洋資源開発、海洋環境工学と共に、船舶工学の基礎から応用までを学んでいる。

そうした学生にとって、船に乗ったり、造船所をみたりすることはたいへん大事なことで、機会を見つけては船に乗せたり、進水式を見学にいったり、造船所を見学したりしている。こうして「現場」を見て、さらに関係者の生の声に耳を傾けることが、新しい研究テーマの発掘にもつながるし、大学で学ぶ学問体系の理解度向上にも寄与し、モチベーションを高める効果もある。

5月中旬に、海事都市をうたう今治市で今治国際海事展「バリシップ2011」が開催された機会に、学生を今治までフェリーで連れて行き、造船所と展示会の見学を行い、さらに造船所で働くOBから直接話を聞く交流会を行うこととした。

さっそく案内パンフレットを作成して学生に参加募集をしたところ、瞬く間に40名を超える参加希望者が手を挙げた。学部1年生から大学院の1年生まで、幅広く船に興味のある学生が集まった。こんなに嬉しいことはない。

授業が終わった金曜日の夜9時半に、大阪南港のフェリーターミナルに学生たちは集合した。乗船するのは四国開発フェリーの「おれんじ7」で、四国の東予港に向かう夜行便だ。週末ということもあってかターミナルは四国に向かう乗客でごった返していた。四国の霊峰「剣山」への登山客の団体などもあり、船上は賑やかになりそうだ。

10時に乗船し荷物を部屋に置いて、学生たちは多目的ルームに集合した。ここで筆者が船の話をほんの少しだけして、みんなで旅の安全を祈願してビール等で乾杯。ちょうどその頃にはエンジンが始動して、次に後進に移り、回頭してから船速を上げるにしたがって船体振動がどう変わっていくかを体感することができた。まさに生きた授業と言える。四国開発フェリーの山田旅客営業部長、たまたま乗船していた海事プ

レスの坪井記者にも飛び入りしてもらい、船の話に花が咲いた。つまみを調達にレストランにいってみると、夜遅いにもかかわらずお客が一杯入っている。オレンジフェリーのレストランの食事は、美味しくて、価格もリーズナブルという定評があるためであろう。「フェリーのレストランは高くてまずい」といった定評を払拭してくれるに違いないと確信した。

「おれんじ７」の船内での祈念撮影

翌朝、６時には四国の東予港に到着した。ここは今治までは車で40分ほどの距離にある工業港である。レストランでの朝食を終えた後、ブリッジを見学させてもらい、航海機器についての説明を航海士の方々から拝聴した。レーダーを見るのは初めてという学生もいた。

この見学後、下船して、待機していたチャーターバスに乗車。まずは、新来島どっくへと向かった。バリシップの最終日には、各造船所が市民に工場をオープンしているので、それを利用しての造船所見学会への参加である。玄関では、大学OBが数人待っていてくれ、学生たちを艤装中のプロダクトタンカーの船内に案内して技術的な解説をしてくれたり、工場内の設備や建造中のブロックなどの見学をさせてもらった。最後は、社員食堂でカレーとじゃこ天の昼食を頂いた。

次にバスで波止浜にある今治造船の本社工場を訪問した。ちょうど今治造船の檜垣社長が出てこられ、学生たちに「ぜひ夢をもって新しい革新的な船の開発をしてください」との挨拶を頂いた。ここでもたくさんの大学OBに歓迎され、完成したバルクキャリアの見学と、工場内の見学を行い、さらに高所作業車に乗ったり、造船所での危険体験をトライしたり、湾内クルーズに乗船したりと思い思いに楽しんだ。

今治造船での高所作業車体験

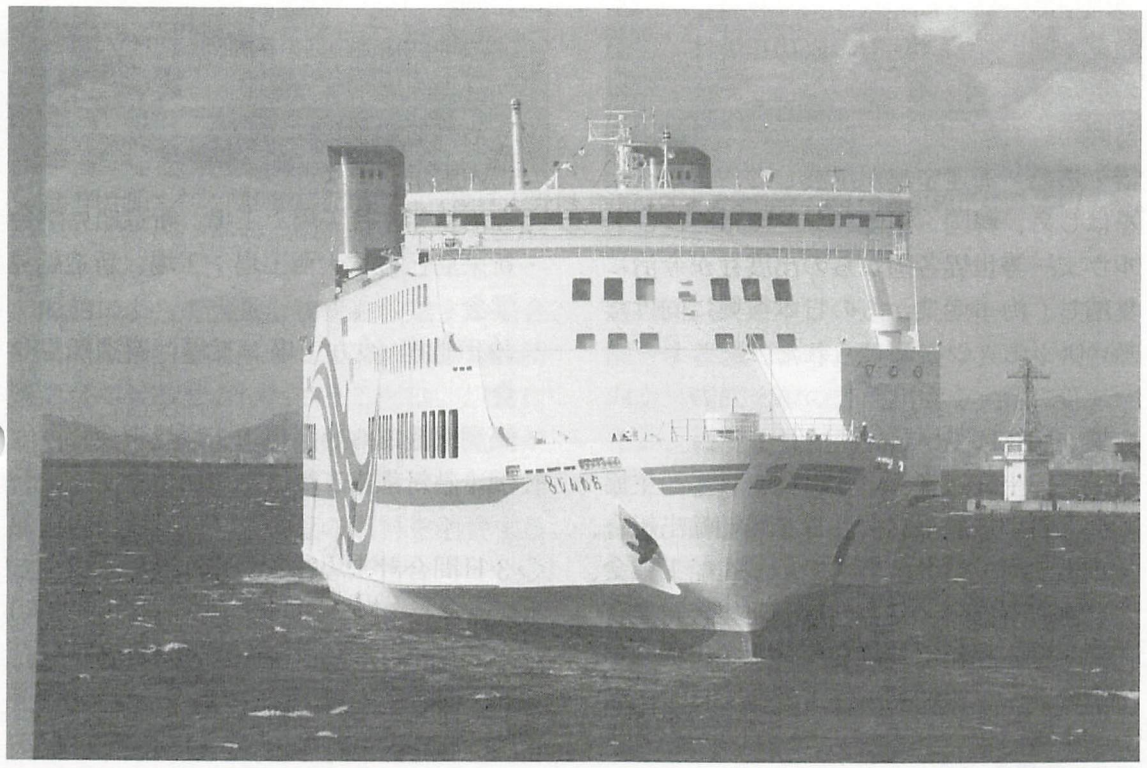
最後の見学先の国際今治海事展「バリシップ」の会場には、たくさんの展示ブースがあり、関係者や市民でごったがえしていた。３日間のうち、最初の２日間はプロだけの入場で、最終日の３日目が市民への開放日となっていた。この３日目は地場産業としての造船業をアピールする絶好の機会であり、子供たちも目を輝かせて会場内を走り回っているのが印象的であった。こうした中から、次の世代の造船を支える技術者が生まれてきて欲しいものだ。ブースの中にも大学OBの顔が何人もあり、卒業生

が造船所だけでなく、造船関連産業でもたくさん活躍しているのを誇らしく感じた。

こうして一通りの造船産業の見学を終えたが、観光らしい観光もしなかったので、「タオル美術館」と「来島海峡」を見下ろす展望台にいってから、今治市内の中央部に聳えたつ今治国際ホテルに向かった。ここでは、今治造船と新来島どっくのOBとの交流会を行った。昼間に造船所の見学時にお世話になった現役造船技術者の生の声を聴く絶好の機会になり、2時間のパーティがあっという間に終わった。

バスで東予港に到着すると、「おれんじ8」がちょうど着岸中であった。行きの「おれんじ7」の純姉妹船だが、内装はだいぶ違っている。昼間の汗を大浴場で流した後、そのままベッドに向かう者、レストランで最後の祝杯を挙げる者、テレビのスポーツを観戦する者など、すっかりフェリーにも慣れて、それぞれの船旅を楽しむようになっていた。

翌朝6時に大阪南港に到着。美味しい朝食を頂いてから三々五々下船していった。2泊3日の弾丸海事視察ツアーを終えて、学生たちがそれぞれ少しだけたくましくなったように思った。



おれんじ8